

ネパール GV 報告書

文責：藤波知己

1. GV ネパール派遣概要

GV 活動は、国際 NGO 団体 Habitat for Humanity が主導する建築ボランティア活動である。Habitat for Humanity の理念は、「A world where everyone has a decent place to live. 誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」を目指すことである。そうした目標の中で、今回のネパール派遣は、Habitat for Humanity の日本支部とネパール支部の支援の下で行われた。

2. 費用

用途	金額
ドネーション代	45,000 円
飛行機代	95,999 円
宿泊費、食費等	119,001 円
合計	260,000 円

3. 日程

				15	16	17
				出国 ネパール着	Kavre 着	ワーク 1 日目 ①、② (番号は後述)
18	19	20	21	22	23	24
ワーク 2 日目 ③	ワーク 3 日目 ④	CA Holy の日	ワーク 4 日目 ④	ワーク 5 日目 ④ 学校訪問	ワーク 6 日目 ④	CA
25	26	27	28	29		
ワーク 7 日目 ④	ワーク 8 日目 ④ フェアウェル	CA	CA 出国	帰国		

○の数字はワーク内容

4. ワーク内容

作業①レンガ運び（写真1,2）

ワーク地に到着し、最初に行った作業は建築に使用するレンガを集積場所から運ぶことだった。約 2500 個のレンガを建築現場へ移動させた。同時期に GV を行っていたエディのチームと列を作り、バケツリレー方式で移動させた。

作業②土均し

重しを使い、土台上の地面を均等にする。

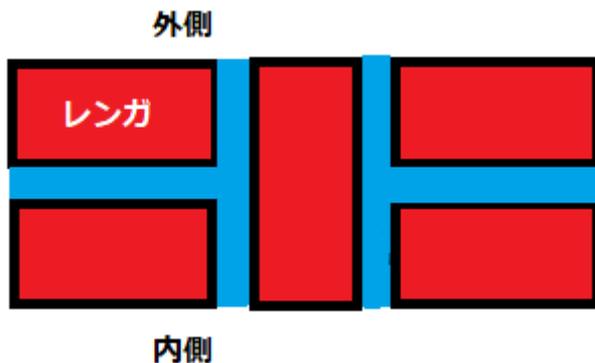
作業③床づくり

均した地面にレンガを敷く。その上にコンクリートを流し込み、床を作成する。（写真3）コンクリートは、小石4、砂3、石灰1の割合で水と一緒に混ぜ合わせて作る。コンクリートを作る際には、写真のような機械を使用した。（写真4）

作業④壁づくり

レンガを積み上げていき壁を作る。レンガは水に浸すことで、空気を外に出し頑丈にするとともに、表面をクリーニングし、接着しやすくする。レンガとレンガの間にはモルタルを流しこみ接着させる。モルタルは、砂3、石灰1の割合で水と一緒に混ぜ合わせて作る。

（写真5）現地の職人が地面と水平になるように張った糸を基準に、モルタルを塗り、レンガを重ねる。以下の図のようにレンガを並べていく。



内側はのちに装飾する。

青い部分がモルタルである。レンガとレンガの間にモルタルを流し込む作業をネパール語では、「コスノス」という。こうした作業は左官鍬のような道具を使用した。また、このレンガの壁は7段まで積むが、1段上がるごとに、配置をずらすことで強度を上げている。（写真6）

7段まで作ると、その段の上に窓ができるため、作り方が変化する。今まで通りのレンガではなく、鉄筋とコンクリートを使用する。各辺に2本の太く、長い鉄筋を並べる。7cmごとに短い先の曲がった鉄筋を設置し、針金を使用して固定する。その後、コンクリートを流し込み、鉄筋を覆い隠す。（写真7,8）



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

今回のGVで我々が支援できたのは、土台から壁7段までであった。



Before



After

ワーク期間中、メンバーは村の人たちとよく交流していた。一緒に写真を撮影したり、言葉・名前を覚えてもらうなどをして楽しんでいた。中には現地の人からネパール語の名前をもらっているメンバーもいた。GVにおける楽しみの一つは、こうした交流である。



5. 学校訪問

今回の GV ではワーク地の近くにある小学校に訪問する機会があった。この小学校は日本の支援をもとに建てられた小学校である。私たちは小学生に、日本のダンスや日本語を教え、小学生はネパールの歌や国歌を教えてくれた。

じゃんけんを教えようと思い、最初に手でやろうと試みたものの、うまく伝えることができなかった。しかし足を使って（パーは開く、グーは閉じるなど）やってみると、伝わったのかじゃんけんを楽しむことができた。言葉では伝わらなくても体でコミュニケーションをとることができる実感できた。（メンバー談）



6. CA：文化等を知る活動

今回の CA（Cultural Activity 文化活動）は、Holy（ホーリー）というヒンドゥー教の祭りに参加できた。ホーリーでは、「Happy Holy!」の掛け声とともに色粉を人にかけるのが一般的である。この日はカーストの身分に関係なく飲酒等が解禁され、また人々の盛り上がりも最高潮になるため、かなり危険である。そのため、町で体験するのではなく、少し田舎のレストランの中庭にて内輪だけで体験した。（写真9）

また都市では、パタンやバクタプルなどの旧王都やカトマンズにて CA を行った。



Holy で一般的な人



バクタプルのニャタポラ寺院

7. Habitat for Humanity Nepal 及びホームオーナーへのインタビュー

2015年のネパール地震での被害からの復興は未だ途上である。現在地震で被害を受けた家屋の約40%が再建されており、残りの60%はこれからである。政府の補助政策も国民にはあまり認知されていないのが現状であり、その仲介をしているのが Habitat for Humanity Nepal である。今回のホームオーナーも支援について知ったのは最近であったらしい。また建築地の近くにも崩れた家が見受けられ、そうした家にも今後支援していく必要があると述べていた。

Habitat for Humanity Nepal が建築支援を行っている建物は、基本的にレンガでできている。風雨には50年ほど耐えうる建物になる予定である。ネパールに地震が起こるのも50年周期のため、耐震性等にはあまり意識は向けられていない様子であった。